

岩手教区報

第391号
立教188年7月1日
天理教岩手教務支庁
盛岡市馬場町3-40
TEL 019-622-7962
FAX 019-623-9597



年祭活動三年目の少ひ隊 主事・少年会団長 高橋 邦和



教祖140年祭

昭和五十一年、教祖九十年祭が帰参者二百数万人を迎え執り行われました。その年、中学一年生になった高橋少年は、少年ひのきしん隊に参加すべく、盛岡駅から夜行列車に乗りました。姉たちから少ひ隊の様子は聞いていましたが、列車では初めて会う隊員たちやカウンセラーさんに、戸惑いと不安でいっぱいになりました。そんな高橋少年の気持ちを察することなく、列車は盛岡駅を静かに出発しました。

少ひ隊の思い出は、今でも鮮明に思い出すことができます。広い第一食堂にびっくりしたこと。しば漬けがしよっぱかったこと。天理駅前でのお茶接待ひのきしんで、電車が到着するたびに大勢の帰参者が押し寄せてきたこと。私が少ひ隊に参加できたのは、この年だけでしたが、やがておちばへの憧れが変わっていき、その憧れを持ったまま、中学卒業後、おちばの高校に入学するために、同じ夜行列車でおちばへ出発したのでした。

今年も少ひ隊のシーズンがやってきました。毎年終了時の感想文には、用紙いっぱい感謝と喜びの文がつづられています。その一部を紹介したいと思います。「最初はみんなと仲良くできるか心配で、少ひ隊に行

くか迷ったけど、最初心配してたのが、バカらしく思えるほど楽しかった」「お茶接待では初めてでわからないことだらけで、すごく不安だったけど、去年参加した人が引つ張ってくれて、たくさんさんの帰参者さんが笑顔になってくれてすごくうれしかった」「来年はもっと声を出して、帰参者さんを笑顔にしたい」等々。

今年の年頭幹部会において真柱様は、「子供の育成を心掛けることは、自分を育てることに繋がります。子供たちと関わる時だけでなく、現れてくる事柄の中にひながたに籠もる思召を悟る努力を忘れないで頂きたい」と思います。その努力が、その時その時の子供たちの様子に見合った育成の上に実るといふ、御守護をお見せ頂けると思うのであります。」と、育成者に対する心の置きどころをお仕込みいただきました。

忙しい中学生が少ひ隊に参加してもらうためには、様々なハードルがあります。それを会長さんや奥さん方の大きな丹精で乗り越えて、初めて参加できるのであります。そのような周りの大人たちの教祖を思う気持ちが中学生に映り、おちばへと、教祖のおひざもとへと引き寄せただけなのではないでしょうか。三年千日三年目の少ひ隊に、お声がけをお願いいたします。



信仰随想

誠心

前岩手教区長

加藤 昌弘

「おちばがえり(一)」

今回の年祭活動の一つとして、「おちばがえり」が打ち出され、岩手教区でも先月、団参が行われました。先日、「ようばく一斉活動日」のビデオメッセージでも表統領先生は、本年、ぜひ実行したいこととして、「おちばがえり」と話されました。

おちばへ帰ることは、信仰生活の上で最も大切なことの一つであることは十分に承知しています。ではなぜ、おちばに帰るか、どうしてそんなに大切なのでしょう。うか。

お道に限らず世界には聖地と呼ばれる所が数多くあり、一生に一度は巡礼しなければならぬと言われている教えもあります。もともと、今は聖地巡礼というと、テレビドラマなどのロケ地を訪れることを言うようですが。キリスト教で

はキリストの復活した地、大聖堂がある所など、イスラム教ではムハンマドの生誕の地、また昇天した地、信者を率いて移住した地など、仏教では釈迦が生まれた所、悟りを開いた所、教えを最初に説いた場所、入滅した所などです。このように多くは宗祖、開祖が生まれた所、亡くなった所、あるいは教えを開いた所などです。

一方、おちばは、人間宿し込みの地、人間が創造された場所と教えて頂いていいますから、天理教の聖地というより、唯一無二の人類の聖地であり、人類の魂のふるさとです。

私たちにもそれぞれ故郷があり、久しぶりに帰るふるさととは、何とも心休まる、ほっとするところです。特に嫁いだ女性が、実家に帰ることは、どれほどうれしいことでしょうか。私の家内も以前、車に酔いやすかったのですが、なぜか実家に帰る時だけは、全く酔わないのです。嬉しくて、心ウキウキで、疲れも知らず元氣に行けるのです。ふるさと、実家とはそういうものです。

おちばは、お道を信仰している人、していない人に関わらず、全人類の魂のふるさとであり、帰るだけで魂が心休まり、魂が喜び、魂が元氣になるところなのです。これは理屈ではなく、ふるさとだから

からこそ、ただただ嬉しい、楽しい、ゆつくり出来、たすかる所です。ですから、おちばに着いた途端に、身上をご守護頂いた、悩みがなくなったという話がたくさんあるのです。また、「このもとをくはしくしいた事ならば、いかなものでもみなこいしなる」と教えて頂くように、おちばは、人間にとって恋しいところなのです。

布教推進講習会

日時	7月13日(日) 午前10時半
講師	山本達則先生(布教の家)
内容	大阪寮々長・大参分教会長) 講話、布教実動、他

行事予定

【7月分】

1日	役員会議(10時)
5日	学生担当委員会例会(19時)
13日	布教推進講習会(10時30分)
19日	教区報編集会議(15時)
21日	青年会例会(19時)
21日	女子青年例会(10時)
29日	少年ひのきしん隊本部練成会

(31日)



今回の現場は、火災被害に遭った山林の小川が流れる谷あいので、作業内容は、土石流などの土砂災害を防止する

災害隊岩手教区隊は、さる5月18日(日)、大船渡市社会福祉協議会の要請を受けて、大船渡市三陸町綾里田浜地区の救援活動に出動し、隊員7人が参加した。午前8時30分、宮野地区多目的集会施設に集合。同所で遥拝の後、高橋邦之岩手教区隊長が挨拶。続いて災害隊基本方針を説明した。午前9時から、技術系ボランティア3人を加えて。ボランティアセンター担当者から作業説明があり、ラジ

「大船渡山林火災出動」 報告(第3報)



災害隊

ための燃えた樹木等の片付けと運搬、そして小川の清掃であった。午後3時に作業が終了し、集合場所に戻り、ボランティアセンター担当者から終了の挨拶があり、その後場所を移して遥拝し、高橋隊長が労いの言葉を述べ、午後3時30分散散した。なお、当初は「教区研修会」を予定していた日程であったが、大船渡市社会福祉協議会の要請に応じて、急遽出動となった。



少年会

「立教188年少年ひのきしん隊」

本部練成会

対象	わかぎ(中学1年生・3年生)
参加費	15000円
日程	7月28日 教務支庁出発 29日 本部練成会参加 (8月1日)
宿舎	8月1日 おぢば発 2日 教務支庁着 おやさとかた東左第5棟、 城山詰所

「岩手教区おぢばがえり」報告

岩手教区は、去る5月24日から27日にかけて、「岩手教区おぢばがえり」を実施し、88人の教友が帰参した。今回のおぢばがえり団参は、中田善亮表統領の「年祭活動仕上げの年は1人でも多くの人に

おぢばへ」との思いにお応えしたいという鈴木眞彦教区長の決意から、実行委員会が立ち上がり実現に至った。24日、本隊となる大型観光バスには42人が乗車。往路時は、教区青年会の車がバスと共に走行し、休憩時はサーブスエ

リアの駐車場で青年会員が交通誘導などをつとめ、参加者から感謝の声が多数聞かれた。その日の夜遅く、おぢばに無事帰らせて頂いた。25日は、廻廊ひのきしんや本部のお願い

本部員より講話を聞かせて頂き、親神様のご守護の素晴らしさと、世界の教友がおぢばを慕う姿から、信仰の原点を改めて気づかせて頂いた。



翌27日早朝おぢばを出発し、車内では信仰談義に花が咲く中、宵のうちに県内各所に帰着した。年祭活動仕上げの年とあって、持ち場立場の上から多忙極まるお互いが、たとえ一つでも、少しの時間でも教区おぢばがえりに参加しようという一手一つの思いが結集した、心に残る感激のおぢばがえりとなった。それは、26日の祭典後に撮影した記念写真に写る参加者の顔を見れば一目瞭然である。今回の団参に際し、関係各位にあらためて御礼を申し上げます。



青年会

「岩手っ子だヨ！全員集合」報告

教区青年会は、去る5月25日(日)、第38母屋を会場に「岩手っ子だヨ！全員集合」を開催し、女子青年4人を含む13人が参加した。これは、おぢば近辺に在住する、岩手出身の学生や本部勤務者などの若者を対象に、同郷の教友が男女問わず一堂に会して、お互い勇ませあつて道に繋がっていくことを目的とした集いで、今回で4回目の開催となる。

午後2時に開会し、高橋邦之教区主事の挨拶に続いて、村松義朗教区青年会委員長が歓迎の言葉を述べた。その後、自己紹介やお楽しみゲームで親睦を深め、参加者は笑顔溢れる楽しいひと時を過ごした。

最後に、同母屋に滞在していた「岩手教区おぢばがえり」の夕食を兼ねた懇親会に参加し、午後8時解散となった。



服装 活動服ズボン・帽子(貸与)、Tシャツ(支給)、運動靴、ソックス
携行品 マイナ保険証又は保険証のコピー、洗面具、お風呂セット、着替え、汗拭きタオル、筆記具、傘、上履き、他。
申込み 各支部育成委員長、または少ひ隊教区担当者迄。
※7月21日(日)10時から教務支庁において教区練成会を行います。

第4回「ようばく一斉活動日」報告

支部	日付	人数
九戸支部	5月31日	中野濱分教会 60人
二戸支部	6月1日	二戸分教会 39人
盛岡支部	6月1日	教務支庁 45人
三陸支部	6月1日	赤濱分教会 23人
花巻支部	6月1日	花巻分教会 37人
奥州支部	5月31日	岩手原分教会 58人
奥南支部	6月1日	磐井分教会 54人
教区参加者総数		316人

「陽気ぐらし講座」開催報告(6月分)

支部	日付	人数
奥州	15日(日)	岩一分教会 30名
15日(日)	金ヶ崎中生涯学習センター	23名
講師	三幣 健志先生	